

患者本位の診察で地域医療の充実に貢献

平間産婦人科 副院長 平間義昭氏
訪問者 南原宏治



患者さんのニーズに応じた優しくきめ細かな対応と、時間をかけたカウンセリングなど女性や子供に嬉しいクリニックとして地元でも評判を呼んでいるのが、茨城県下館市にある平間産婦人科です。同院はがん検診や日帰り手術、思春期・不妊・更年期外来などにも力をいれられ、悩める女性の頼もしい味方になってくださいます。また産科の分野でも自然分娩のほか計画分娩や無痛分娩、立ち会い分娩などさまざまな希望に応じられています。

いずれ親子三人で働ける日も

南原 ここは下館駅にもすごく近くて、場所的にとても便利のいいところですね。

平間 もともと当院は駅前が開業していたのですが、駅前の土地開発などいろいろ問題があったものですから、それを機に十年ほど前にこちらに移って来たのです。

南原 そもそもこちらの医院は、地元で開業なさって何年くらいになるのですか。

平間 四十二、三年になります。

南原 では初代のお父様がここで開業されて、副院長先生は二代目になるのですね。

平間 そうです。私はこちらに帰って来て三年目になりますが、実は弟も同じ世界におりまして将来帰って来る予定です。

南原 弟さんは、今大学かどこかにいらっしゃって帰って来られるわけですか。

平間 はい。現在慈恵医大で産婦人科医として勤務しております。

南原 親子ご兄弟で同じ産婦人科医でいらっしゃるなんて、素晴らしいですね。

平間 そうですね。三人で一緒に働けて平間産婦人科を発展させていけたらいいですね。私達の仕事は二十四時間拘束され休日もないうえ、学会や研究会などに出席して勉強や研究会などに出席して勉強や情報交換もしなくてははいけません。それこそ父が一人でやっていたころはそういうことと診療の両立も大変だったようですが、今は父に留守番を頼んでたまに休ませてもらっています。



同産婦人科外観

南原 では院長先生も、現場でのお仕事をお手伝いなさることはあるのですか。

平間 はい。週一日だけ院長に診療をお願いして、私は大学（慈恵医大）に行かせてもらっています。

また、特にお産が重なった時などはとても忙しくなりますので、そういう時には院長も現場を手伝ってくれています。

南原 産婦人科の場合、お産がありますから時間を選んでいただけませんかものね。

夜中でも早朝でも待っていてはくれませんから、大変でしょうね。

平間 ええ。それはこの世界に入った時から覚悟はできていましたが、やはりたった一人でやるのは精神的にも肉体的にも大変です。

父に感謝していますし、早く弟にも帰ってきてほしいです。

患者さん本位の診療を心がける

南原 こちらは産婦人科だけでなく、内科のほうもやっていらっしゃるのですか。

平間 はい。ただし、内科はあくまで産婦人科の分野に付随する形です。

ですからいわゆる婦人の内科と、あとは当然子供さんも診ますので小児科のほうもやっています。

南原 その患者さんですが、地域で長くやっていらっしゃる医院ですから、やはり地元の方が中心ということになりますか。

平間 ええ。ほとんどが地元の方中心で、あとは近隣の町から来られて、ここを気に入ってくださって通われる方も多いです。

南原 やはりそれだけこちらの評判が、いいのですよ。ご自身では、平間産婦人科の一番の特色はということだと思われませんか。

平間 今までの産婦人科は、特殊な科というイメージが強く、まず内科などを受診されてそこから紹介されていらっしゃるようなケースが多かったのですが、私共では女性が何かトラブルを感じたらすぐに相談に来ていただける、そんな女性専用のクリニックになればと思って頑張っています。

南原 女性には嬉しい場所ですね。

平間 そうですね。それも女性の悩みですから大体は婦人科で対応できることが多いのですが、婦人科で対応できない場合は他の科をご紹介させていただくという形でやっています。

つまり、今までの産婦人科と逆のスタイルでやっているような感じでしょうか。

南原 女性に優しいということは、また子供さんにも優しいスペースといえますね。



入院室内部

平間 そうなのです。とにかく患者さんは女性ばかりですから、子供連れでいらっしやることも多いわけでしょう。

そういうこともありまして、私共は女性と子供のためのクリニックということを特色としています。

南原 今は少子化でこの世界も競争が激しいと思うのですが、そんな中で生き残っていくのは、きっとこちらのような患者さん本位の診察を心がけておられる医院でしょうね。

平間 私共も、そう願っています。

南原 逆に今後は、こういった産婦人科の需要はますます増えるのではないですか。

希望に応じたお産を指導

南原 女性の患者さんが多いとなりますとほかにも清潔さやソフトな対応など細かなところにも気を使われるのではないですか。

平間 おっしゃる通りです。女性専用のクリニックですから、ただ清潔なだけでなく院内から清潔感が漂うように気を配り、さらに受付の対応からナースの接しかたなども威圧的にならずに、優しくソフトに接するように指導し、私自身もそのように心がけております。

また、病気や症状の説明をできるだけ詳しくするというのも大事な要素だと思います。

南原 そのほか、例えば、専門的な特色としてはどのようなものがありますか。

平間 細胞診指導医の立場から、癌検診にも力をいれ上皮内癌までの日帰り手術も行っています。

その他男女産み分けや習慣性流産に対するリンパ球接種などの特殊治療も私共の得意分野ですから、いろいろご相談にのっています。

あとは産科ですが、こちらも極力患者さんの立場に立ってそのニーズにお応えしています。

南原 たとえばどんなニーズですか。

平間 たとえばお産の方法にしましても、自然分娩はもちろん計画分娩、無痛分娩、立ち会い分娩など、患者さんの希望に応じていろいろな形のお産を指導しています。

それに産後も母児同室と別室の両方の希望がありますので、それを自由に選べるという点でもお母様の意思を最大限に重視しています。

南原 何から何まで患者さんの立場に立った、きめ細かな対応が特色なのですね。



平間義昭副院長

平間 ええ。産婦人科では特に、今そういうニーズが増えてきていますし、先ほど南原さんがおっしゃったように、私自身も今後この世界はこういう形でやっていかなければだめなのではないかと思っています。

南原 そういうことも含めまして、医院としての今後の展開と申しますか、夢や抱負などもあればお聞かせいただけますか。

平間 具体的な夢は特にはないのですが、いつでもどんなことでもかかれる女性と子供のためのクリニックとして地域に根付き少しでも多くの人の悩みを解消できたらと思っています。

そして今後も父や弟と力を合わせて末永く地域医療に従事できれば、こんなに嬉しいことはありません。それが私の当面の目標です。

南原 弟さんが帰って来られれば院長も一安心でしょうし、こちらの将来も安泰ですね。

平間 ありがとうございます。

南原 これからも皆さんで力を合わせ、地域の方々のためにぜひ頑張ってください。



対談中の南原宏治(左)と平間副院長(右)